天明令典永鑑

二十四

814
8

国立国会図書館　　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

天明令典永鑑

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

諸役人并
国司等
安永二巳年八月

公家元ゟ被
仰出候
御事ニ
候間
相勤候
様ニ
可被
仰渡候
以上
八月

安永二年年正月

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

折ニ見ヘリ仍テ如件

正月

安永二年癸十月

毒合流ニ門又皆白月次ニ禮預
相脈在ニ面ニ病氣ホニ白出仕又敗
爲ニ面ニも有ニめ卯後ニ
已来ニ病氣ホニ白出仕又敗
度ニ下ニ相屈ニ病氣ニ白ニ段

御免ニ而ニも退ク時ハ
月次礼禮預ケ不相済門ヲ閉ル不及ル
一
年ヲ経テ相成ル得ハ
御用見モ不
相預而ニも有ニ之ハ印形ヲ病気ホ
カニテ証見合ル時ハ代リ有ニ之得ハ先ル
其侭ニ而ニ
御用見ニ相預知ニ病気ホカニ証見合
一御用見毎ニ又ハ月次礼禮ニも
ハ病気ホカニ年来引込居ル而ニも
有ニ之病気ニ事ニ候得ハ先ハ
ニ有ニ之ハ年数ニも相成迚も快気
致旨医病ホカニ不
右ニ趣ニ而ニ不
相達ル

安永巳未年巳月

覚

一 諸大名家勤之者江戸
繁多之旨
御代々御條目被
江戸中ニ而者不及

人数多ク死亡ノ後ヲ絶ツ自今以後立テ戸
主ノ跡ヲ継ク人数ヲ減ス可カラス
一 逃亡ノ戸ニ当テ雇用ノ者ハ其ノ雇人ヲ死亡ノ場ニ準ス
右ノ外ハ総テ雇用ノ者ハ今ノ人数ヲ減ス可カラス
一 逃亡ノ上ヲ雇定ル通急ク人数ヲ減ス可カラス
一 逃亡ノ戸ニ当テ又ハ絶ツ人数有ルトモ死亡ノ場ニ準ス可カラス
一 逃亡ノ戸ニ当テ雇用ノ者ハ勿論
雇用ノ人数百姓ハ百人ニ一人牧士ハ十人ニ一人牧馬ハ百匹ニ一匹ヲ減ス可カラス
一 逃亡ノ戸ニ当テ人牧百姓ハ軍役ヲ免ス
勤仕ノ事
二十万石以上
馬上 拾五騎ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8
ガラス使用

但自所云百連以下

定把　百二十人
中間人食二十人
十万石

馬上　十騎
足把　八十人
中間人食百二十人

又万石

馬上　七騎
足把　六十人
中間人食百人

壱万石

馬上　三口騎
足把　二十人

中間人ニ三十人
一只今ニ小人数ニ而ハ相勤事海ノ場所ハ
元手(船)当ル廻米二百
二十万石以下ハ弐拾
艘ニ而ハ勤不申事
右ニ通先年ハ船ノ如何ニ
節ハ而ニ不人ニ而雇人数ハ
平意ニ人手ニ而不事到底ニ
気毒ニ泊遠右ニ
お咎ノ方ニ不調法ニ
泳先年ハ船ノ通急度ニ
右ニ廻万石以上ニ而ハ
七月

安永七年十二月

仍勘定奉行

後嚴左京亮

奢合小普請仍没令某左京亮

没不日請名仍損了改仍右衛門

取扱仍二月節刀

御免許被仍手渡

一云中後山

安永二申年九月

勘定奉行
同　吟味役

寄合小普請ニ候共寄合向後何茂歩
之扱上納金ニ候共差免之節役不
無勿論願取ニ候得共其節ニ
相達ニ候ニ付得其意ニ

九月

安永八亥年九月

阿部豊後守事老中ニ而
御出之節御礼事ニ而御三家始諸大名
其外ゟ向後老中ニ而
老中ニ而通ル
老中ゟ通ル
老中ゟ通ル
老中ゟ

一預書之宛不ㇾ及書入ㇾ
右之通可ㇾ相觸ㇾ
ㇾ月

安永八亥年ㇾ月

多賀井波ㇾ
酒井光淳ㇾ
佐ゝ木百ㇾ

右若年寄ゟ来ル廿五日
御礼事ㇾ向後若年寄ゟ通ル可ㇾ相触ㇾ
尤賄ハ前ゝ若年寄ゟ通ル、ㇾ国主ゟ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』 請求記号 814-8
ガラス使用

輩よりハ若年寄ヲ経
先導ヲ以テ式ヲ挙
一預書ニ宛而ハ不及書入
右ニ通ヲ以相触ル
　　九月

安永九子年二月

　　九月廿日

向後
御城書ヲ中ニ仮為リ
相定ル　御城近ク
ニ於テ畢途ニ而ハ

相詰候節次第ニ而ハ相勤ル事

一休詰日番ニ而小人目附ニ者差出ス

一面会之節　御城番相極置候ニ而ハ
御次ニ而ハ不通候ニ付廊下迄参ル
詰並ニ可会所ニ而ハ
不苦候ニ付場所ニ附添
不申候ニ而ハ
但御次ニ相詰候ニ而ハ
御用之外同道ニ而ハ
廊下ニ而ハ話居ル
不申候ニ付
右之通ニ而ハ
不申候ニ付
右之通ニ而ハ
不申候ニ付
右之通ニ而ハ

安永九子年八月

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8　　ガラス使用

安永九子年十一月

諸向前後古役之ものより
御届御座候共其節之御
奉行様江御知等事
奉行様江御届申上候事共
右之通相改候以来
慥御届可申候以上

安永九子年十一月日

御用の者舎おゐて
如何なる事に有之候共決て
火消役おゐ差遣候儀
おゐ仕右躰之儀
ても御心得
右之通可被
十一月

天明元丑年閏正月

依参者當ら

御養君様ら　治郎
當酉ら相勤ゐ
閏正月

天明元年九月

寺社奉行

公家衆中

此条之事ニ付而ハ
て被仰渡候間
入用ホ有之趣ホ

余於ハ御建立度ニ地
親類衆御極ノ外ニ
家来不ニ及ハ法ニ
區相談親類
故有間敷仕来ニ
寺ノ僧ヲ御
ニて御座候者ニ
ニ於ハ地ヲ
ニ於ハ地ヲ
ニ於ハ地ヲ

候濃不取敢拙筆又申添右之外
味能老人宿坊不備諸品陽不悉文
毛拙句相渡候
右之趣青松寺より江中渡候旦那
より論不真外掛物被渡候哉有之剰
之ものも毛之有之旨立帰之たあ何茂
昨夜人お越し剰拙句江被御覧候哉
毛拙句相渡候
青松寺より句料弐朱御取次も
不被成候間拙句江中旦那江御届
同所お越候拙句中渡候旦那江
子年之通江戸江御届可申候
江戸被候
九月

天明元酉年九月

三十日

向後許定所式日者
有之旨可申達其意
九月

出羽守

迎本席

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

天明元丑年九月

出羽守殿御陽手掛り之

一 洋備毎朝書請預ル

附ケ札取扱向ハ是迄之通

差出ス事ニて差支

一 人馬

御条下并従文預ヶ置候方
老中ヨリ差出ス以来月番ヶ老中ヨ
リ差出ス

一従文并書物ヲ以申聞候儀勝手
次第ヶ以来御用状ヲ以テ申聞ル
一遠国ヶ中越ノ内書添ヲ以テ申聞
候ヶ付是ヲ老中ヨリ当中越ノ
以来出羽ヨリ中越ノ
右ノ趣向ヨリ出ス事
九月

天明元丑年十月

右之趣可令下知者

十月

天明二寅年十月

大目付

勘定奉行

頃如令申渡候処ニ御勘定より収納米

年来及困窮ニ付先達而

依二有家節法
與百姓到之時沙汰之
勝手可取並之事
法成下
公廻之勤向之始歟上
右官、准之勤仕用
右官恰好之用
法
佐有仍
伴有仍

人数亦右、准之勤仕
之法得之意仍
十月

天明七辰年十一月

大目付

覚

一公儀向ニ而御礼且又
老中ニ而申ニ而ハ無之候ハヽ
井伊掃部頭殿
ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

一 左所ゟ之御機嫌伺手紙
之儀掃部頭江差次書中ニて江戸ニ而
一 端午重陽歳暮之
祝儀上ゟ之賜物之儀
江戸ニ而掃部頭ゟ書中ニ而
領山事
十一月

天明二寅年六月

大目付
町奉行

向後奥表ゟ書中到着之節
有之時年 湯 ニ而
城ゟ宅ゟ別産ニ而
治出ゟ

六月廿七日

天明二乙年十二月

掃部助

而後上野增上寺

御裝束而

御參詣之旨等

御法會

御參詣之旨

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

勅先勤育之事

天明六年二月

越而定國勤之而已支配不之百姓
何人分令報ホ偕用有之百姓
勿論之ホ之ホ万一家来
尚分之多ホ合のニ速ひ
有之ホ如何之ホ右神之偕用

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

不中越格ニ特ク家集ホト令並
ニ遍クハ之ヲ外ハ役ヲ勤ムル而已
指揮ヲ以用令ホト有ル
改易ヲ有ル百姓事ニ於テハ
云ヲ拓家集ヲ勿論但支配有ル
而已ヲ但支配ヲ以得ル
之ヲ其人民其旨

相心得若仍拘遠令ヲ
中ヲ以テ委遠ニ不敢出
右ヲ通テ出ヲ前ル

二月

天明六年年二月

大目付

掃部頭石谷豊前守貞清
老中江通之旨申渡之使之先達而相達置之通
御機嫌伺年頭御礼ニ罷出候節
勿論御事ニ候哉老中江茂可申渡哉

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8
ガラス使用

夜ニ掃部寮ニ於テ諸蕃ヲ饗セラルヽ
ヲ書ニ記ス其儀
一對客日ニ　城主諸蕃ヲ饗セラル
ヽ同日ニ又ヽ御礼事ヲ奏ス
其勤度ヲ服セラレ掃部寮ニ
於テ其儀ヲ行ハル又ヽ使ヲ
以テ表ヲ中ニ於テ儀ヲ行ハル
ヽ

諸蕃ヲ饗セラルヽ事ニ於テ
ニ於テ儀ヲ行ハル　御
ノ如シ
右ニ依テ令ニ於テ違ノ
二月

天明六年年之月

林大学頭

一年始之儀、今之通表之向之通
申上之事
一又旨旬月次之外、

中上山事

一月次諸叙下及今之通山事

右之通可施行之状如件

天授六年年六月

阿芳行日

祖父山背流之門宅也兼及

而已只今之世悔意於也事

近年世上諸人爭山百姓

之地所於也山指下施行

小牙之而之去仕連茂者略又
痛不亦有之焉上之勿
去行之て於旦仍勿
掃之門辻番人等出
附之辻番人か河内番
河之雖与申談番組
取之而之
取名於達取取之而
お達の穢辻番取名之而
辻番人名前不為申少仍於旦
名前不為申少仍於旦り
旦り先之勿體裁之
之而之辻番又
自牙番不之取之
下註相屆仍辻番不之

取敢ず月番より
御届申上候
同心木村善五郎
不及引渡御届申上候
以上

但自分書不申候間自分書ハ
何寺ゟ不申越候ハヽ其寺ゟ
可申出
右之通相違無之候ハヽ委細之儀ハ
山川下総守ゟ一ト通伺
六月
右之通相違無之候ハヽ委細之儀ハ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8
ガラス使用

天明六年九月

大目付
江目付

被 仰渡候向ハ今まて丹波ニ而ハ
若年寄ニ而ハ其出ハ今日限
若年寄ニ而ハ其おゐ松向後用書之者中
若年寄ニ而ハ其おゐ松向ニ而ハ一ト通り

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

天明六年午閏十月

大目付
小目付ヨリ

一回

武家面々ヨリ面々ヘ音信ノ節人数多キ歟
御定ノ人数ニ減ジ候ヘキ旨
石運ノ節人数ニ増減ノ事
諸国ヨリ公儀ヘ音信ノ節人数ニ増減ノ事
仰付ラルヘキ哉

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

大目付
目付へ

此度西丸ゟ御次ヶ順之儀一
右連ヶ而ヶ老ヶ
御丸ヶ而丸ヶ御
玄関ヶ式場而ヶ奏
者ヶ而丸ヶ役ヶ
者

天明六年丙午十月廿日

此人ゟ申筋ヶ而ヶ
右勤ヶ振而ヶ
御目ヶ懸ヶ
御達ヶ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』 請求記号 814-8

ガラス使用

大目付
目付ゟ

今日両名ゟ両ヶ一同ニ勤向中渡切ニ
両名　御滞留お止いとゝ勤方
只今ゟ一通ニお心得向ゟ可
達い

ゟ伝役ゟ右勤
御本丸ニ而役ゟ役ゟ
一ゟ達い

閏十月廿日

次ゟ附順ニ相向ゟ

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

閏十月廿四日

天明六年閏十月

大月分
小月分ニ

今日雨花ニ而ニ日ニ
病氣本ニ而不出ニ
同役ニ申達ル
閏十月廿四日

天明六年寅十一月

清水見
西見
以同断ト

西見大奥向西見仕留当番
多入ホ有之節ハ外長局向
掃除ニ後ニ黒鍬仕掃除ニ志差出

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

西丸御留守居等差添
一之渡御西丸御留守居江
天明七未年二月
諸向勤方申合ハ
渡シ御達之儀ハ
来ル二日役人ヲ
ル武組支配
帳組支配勤向ヲ

当番ニ出勤ニ参ル事不宜
条舎ホシ長ク役扨ニ不似合拙奥
音曲ホヲ不慎酒宴ニ長シ礼義ニモ
不拘行跡不宜業ニ有シ拙
お関ヒ来ニモ右体猥かましき
出合ホハ変ニ有シ而シ紀事ニハ
右役シ者中間ハ役ヲ不勤ヲ
扶持ニ拘ラス被仰聞ハ役可
有シ旨ハ滑ナ右役シ
出来ル筈中合ホ入ニ
新役シ事ニ為ニ宜勤方ヲ
心ヲ用ヒお勤ヒ中ハ
有シ事お達ハ条仮
心得違ニ仕ラヌ様ニ

右之通仰之旨可被達候

三月

天明七未年三月

大目付江

通来候書之面之通仰出候間其元始末向
江被入申候条勤之外清礼事ホ
又ハ年中定式之賀定之賀而ホ
仕来之負数等者暗渡シ又ハ

不拘年齢或ハ一向得ぬ
不及伺候有之ハ其事を一巳し
書伝箱等ハ遠ひ
上ゟ附ル勤不申候ハ
有之ニ而ハ成ハ此ハ
外ゟ遣にて右之通ニ
茶ゟ仕来之通箱
有之候哉暗ク候

無之候ハ
右之通ニ而ハ
宜遠ハ
三月

天明七未年三月

迎来仙旗ニ而ニ名宅ニ
城番ニお城ニ伐鉦ニ
加勢ニ而度々見ニお城ニ有ニ
勤向出情ニ而事ニ
小者ニ而ニ當時ニ

相勤候儀ニ候ハヽ
其段可申出候
一御成式之節
成丈ケ
何とゝ
仏事
御成人数多ニ候ハヽ
其段可申出候
一御成

天明七未年三月

近来諸向義老中宅
年日之入候一ノ方石ノ上ニ而来数多ニ白
間意ホ中夢ノ候義別ニ而鑓多ニ成ノ者ニ而
自然ニ白状ニ及候ハヽいつとなく
猥ニ頼ニ而夢ノ如ク参候ハ紀綱ヲ

右之趣向々ゟ堂々ニ而達ニ

天明七年

町年行

山先生

長谷川平完

松平定信

安永年吉

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

宗田三蔵
安養又三郎
小野次郎右衛門
武蔵左近蔵
河野勝兵衛
奥村忠右衛門
玲木源五郎

町方於ニ支配相勤ハ
右連人今日より相止
候様町年行ニ一ヶ
ハ切於ニ渡ハ
ハ
右之通一ヶ渡ハ
一ヶ相心得

天明七未年六月

大同令

従大名已下陪臣老中若年寄中
已下寺社奉行已下町奉行
其外諸役人等江戸在勤之者
并在所ニ有之者共ニ
従公儀御触書
写之

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

取揃い端ヽ相揃い候
毛用いたし来り候
間ヽ相改
右之通相心得可申
旨被仰渡候

天明七未年七月

人游し
人游し類淫
上意難有候
淫祠寺社等
作出其上
役人ヽ勤方ヽ

し候ともれ細やかなれ油法も有之い
御代ニし　思召を以為継
後明院様ニし　思召ニし達い私ニく
思召い誠忠収斉忠入候ニ私共
役人数度一和我意をれ相立
御為ニし尽をい私ニし候ハ、於其許
かくのご仁を重い事ニれ心ニ改迷い

家事元々家中領内治方之
厚く心を用ひ師業耀候者ヶ宮家事
之儀は役人世上風俗之
批判厚く慎み候を役儀
寛量一重心を以中略
毎々不埒無之候心得毎々師
有之候共一向に取上申候
仍如件

仙洞御所
上意有之候間不取敢申
急度仰付候事
可致心得一時之御用
御為を存候者ヶ宮家
一日も早く御家督
今以之忠勤ニ
右忠勤之御

天明七未年九月

大司馬ニ

支配ニ候ハヽ向ニ而名甚支配ニ人物
取立ハ候得共一ニ而ハ文武ニ而ハ譽を一加候も
組支配下ニ而着物ハ多ハ勤無之候
表外ニ番入ハ役出来ニ而ハ不申候

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

天明七未年十二月

二番

八月廿

四番清書

四番清書

小番清書

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』 請求記号 814-8

ガラス使用

814

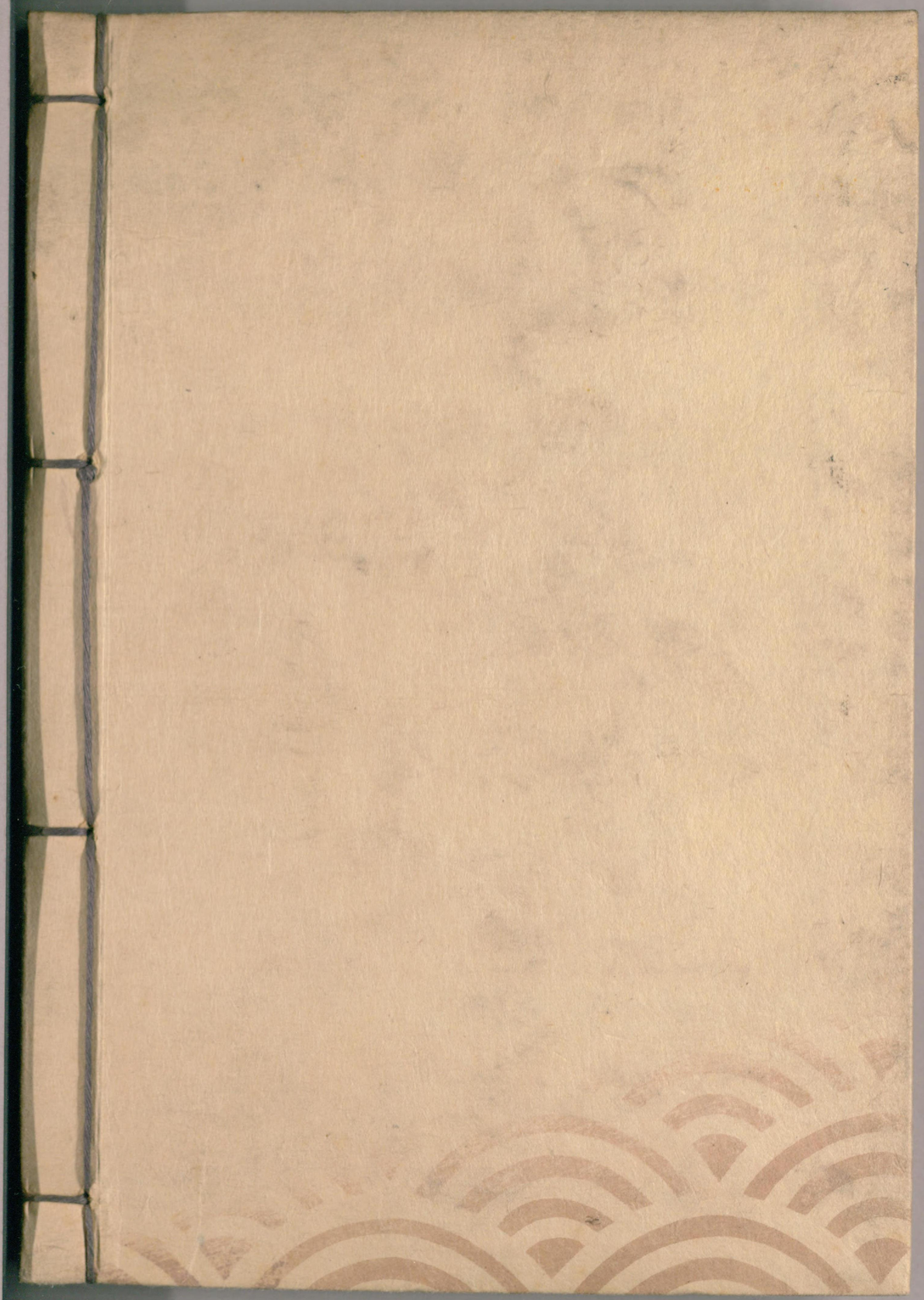
国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用

814
8
特別

国立国会図書館　タイトル『天明令典永鑑』 請求記号 814-8

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『天明令典永鑑』　請求記号 814-8

ガラス使用